

経済分野に関する意見対応表

【経済】			
No.	委員	意見（要約）	対応
1	山本（強）委員	<p>基本目標10に書かれている「北海道の経済をけん引している」ということは非常に重要なことだが、施策は札幌市視点で、それが読み取れない。</p> <p>掲載写真のうち、札幌で取れているのは玉ねぎくらいで、実際には札幌の食産業も観光もエネルギーも道内の地域との連携があつてのもの。</p> <p>「札幌市が北海道経済をけん引する」ということを意思表示として書いた方が良いのではないか。</p>	<p>ご意見を踏まえ、札幌だけでは無く道内の地域と連携しながら推進していくことを表すため、基本目標10の目指す姿1の施策に「北海道の魅力を生かした」という表現を追記します。</p> <p>なお、ご指摘の観点は重要であると認識しており、戦略編 第3章「行財政運営の方向性」にも、「北海道と共に発展する札幌市」の方向性として、道内市町村と連携を深めることや、経済成長をけん引していくことを意思表示しております。</p> <p>（修正案） 食産業の競争力強化に向けて、<u>札幌市・北海道の魅力を生かした</u>、<u>加工製造業</u>などにおける商品開発や認証取得のための取組を支援します。</p> <p>（当初案） 食産業の競争力強化に向けて、商品開発や認証取得のための取組を支援します。</p>
2	中田委員	<p>札幌は製造業が弱いと言われており、また、製造業を分野別に見ると食関連の割合が高いと言われている。</p> <p>素材は良いわけなので、食品加工製造業がしっかりと発展することができれば、それを国内外に発信する、提供するということができると思う。</p> <p>食を提供するだけでなく、食分野に関する加工製造業の促進ということを盛り込んでほしい。</p>	<p>ご意見を踏まえ、基本目標10の目指す姿1の施策を修正します。</p> <p>（修正案） 食産業の競争力強化に向けて、札幌市・北海道の魅力を生かした、<u>加工製造業</u>などにおける商品開発や認証取得のための取組を支援します。</p> <p>（当初案） 食産業の競争力強化に向けて、商品開発や認証取得のための取組を支援します。</p>

No.	委員	意見（要約）	対応
3	木村委員	<p>10-1の「充実強化すること」に、「食の販路拡大」とあるが、これは高付加価値化を意味しているのか。</p> <p>全道にあるいろいろなおいしい食べ物を素材のまま札幌を經由して東京に出してもあまり意味がないので、例えば、食材を高付加価値化できるお店やホテルを札幌に作る。そうすると、札幌が富裕層向けのサービスが提供できる場所になり、そういった仕事ができる人が雇用され、経済に貢献できると思う。</p> <p>現在、札幌の一番高いホテルの部屋は3万4,000円ほどだが、東京には一泊10万円のホテルがある。そういったホテルには、宿泊者が使うレストランがあり、現場やバックオフィスのスタッフがいて、デジタルスキルも持っていて、顧客情報を活用してもっといいサービスを企画したりと、様々なことに派生する。そのために高付加価値サービスを札幌で提供できるようになるとよいということを打ち出していけるとよいと思う。</p>	<p>食のブランド化、高付加価値化については、基本目標10の目指す姿1の施策「食の産地・製造地としてのイメージ・ブランド力を強化するため、食の魅力の掘り起こしや、次代を担う人材育成の支援を行い、国内外へ食の魅力を発信します」に掲げ、取り組んでまいります。</p> <p>また、観光の観点については、ご意見を踏まえ、基本目標10の目指す姿1の施策を修正します。</p> <p>（修正案） 観光の高付加価値化に向けて、札幌市・北海道の魅力を生かしたコンテンツの充実等に取り組みます。</p> <p>（当初案） 観光の魅力を更に向上させるため、札幌・北海道の魅力を生かしたコンテンツの充実に取り組みます。</p>
4	川島委員	<p>10-1に「札幌・北海道の魅力を生かした観光コンテンツの充実」とあるが、ここには、スポーツ・文化分野で出てくる「スノーリゾートとしてのブランド化」や「スポーツツーリズムの活性化に向けた国内外へのプロモーション」等が含まれていると思うので、その辺りが分かるような工夫が何かあれば良い。</p> <p>例えば、基本目標4のように、分野横断的であることがわかる表現にしてはどうか。</p>	<p>ご意見を踏まえ、分野横断的であることがわかるような表現を追記します。</p> <p>（修正案） ※スノーリゾート、スポーツツーリズムの推進の観点は「スポーツ・文化分野」に記載。</p>

No.	委員	意見（要約）	対応
5	山本（一）委員	<p>10-2に「教育」という文言を加えていただきたい。</p> <p>現状では親の経済力の違いによる教育格差が広がっているため、札幌市の子育て支援都市としての立ち位置を高め、未来の経済を担う子どもの教育の機会の公平性と、若者や子育て中の方、障がいのある方の雇用につながる施策案として提案。また、まちづくりの重要概念のスマート（快適・先端）の「誰もが先端技術などにより快適に暮らし、新たな価値の創出に挑戦できる社会」の実現にも関係するもの。</p> <p>まず、学童保育施設にITを用いた学習支援のインフラを構築し、学童保育を利用している児童にITを用いて放課後の学習支援をするということ。</p> <p>そして、「学習支援員」というものを新しく設けて、ITを用いてリモートで子どもそれぞれに分からないところが分かるようになるまでしっかりと教え、学習の悩みなどの相談に乗るということ。</p> <p>「学習支援員」というのは、若者や子育て中の方、障がいのある方などの多様な働き方にも繋がると思う。</p>	<p>教育格差を生まない等、子どもの貧困対策については重要な観点であると認識しており、基本目標2の目指す姿2（子ども・若者分野）の施策に「生活困窮世帯などの子どもに対し、助成や学習支援等を実施します。」を掲げ、取り組んでまいります。</p>
6	中田委員	<p>11-1の事業承継への支援に関すること。</p> <p>北海道、札幌の企業の六、七割で後継者がいないという現実があり、特に小規模企業でその傾向が強い。</p> <p>一方で、スタートアップのような、起業したいという若い人は潜在的には多くいるという話も聞いている。</p> <p>いわゆるM&Aに近いのかもしれないが、後継者がいない企業と、独立したいと考えている若い人のマッチングを充実させることで、培った企業のノウハウや技術が承継され、札幌市の経済の基盤となることにもつながると思う。</p> <p>事業承継について、M&Aという言い方がいいのかは分からないが、そういった支援をするということを入れてはどうか。</p>	<p>ご意見を踏まえ、基本目標11の目指す姿1の施策を修正します。</p> <p>（修正案）</p> <p>中小企業の経営基盤を強化に向けて、資金繰りや事業承継等の経営課題の解決、新製品や新技術の企画、開発、販促活動等を支援します。</p> <p>（当初案）</p> <p>中小企業の経営基盤を強化するため、資金繰りや経営課題の解決、新製品や新技術の開発を支援します。</p>

No.	委員	意見（要約）	対応
7	山本（一）委員	11-1「中小企業の経営基盤の強化に向けて、資金繰りや経営課題の解決、新製品や新技術の開発を支援します。」とあるが、非常にさらっとしているので、「中小企業の経営基盤を強化するため、資金繰りや経営課題の解決を支援します。」と「加速する時代の変化に合わせ、新製品や新技術の開発を希望する企業に対し、産学官連携の活用方法を伝え、マーケティング、展示会への出展、新しい販売方法など、必要な場面に合わせて切れ目なく支援します。」というように記載を分けてほしい。	<p>どちらも経営基盤の強化に向けた取組であることから、基本目標11の目指す姿1の施策は、分割はいたしません。ご意見を踏まえ表現を修正いたします。</p> <p>（修正案） 中小企業の経営基盤を強化に向けて、資金繰りや事業承継等の経営課題の解決、新製品や新技術の企画、開発、販促活動等を支援します。</p> <p>（当初案） 中小企業の経営基盤を強化するため、資金繰りや経営課題の解決、新製品や新技術の開発を支援します。</p>
8	山本（強）委員	11-2のデータ活用に関する書き方が抽象的であると感じる。 国としてデジタル田園都市国家構想や、society5.0、DXなどがある中で、札幌市としてどういう取組をするのかという意思が見えてこない。 デジタルインフラ、データセンター、高速ネットワークというようなキーワードが、施策とうまく関わり合うかたちで入れ込めると良いと思う。	<p>ご意見を踏まえ、基本目標11の目指す姿2の施策を修正します。 なお、分野横断的に取り組む観点として、スマート分野の「スマートシティの推進」にも位置付け取り組んでまいります。</p> <p>（修正案） 様々な分野の生産性と強靱性の向上に向けて、中小企業におけるデータや先端技術の活用促進に関する支援を行うとともに、データセンター等のデジタルインフラの集積に取り組みます。</p> <p>（当初案） 様々な分野の生産性向上に向けて、中小企業におけるデータや先端技術の活用促進に関する支援をします。</p>

No.	委員	意見（要約）	対応
9	柴田委員	<p>創造都市やICC、NoMaps等の記載が無い。 今記載している内容は正しいことだが、一方で毎年書いているようなことでもあると思う。 創造都市やICC等、未来に関わるものにも少し触れていってもいいのではないか。</p>	<p>ご意見を踏まえ、基本目標15の目指す姿2の施策を修正します。 また、ICCやNoMapsについては、基本目標11の目指す姿4の施策にある「オープンイノベーション」の一部と位置付け、取り組んでまいります。</p> <p>（修正案） 札幌市ならではの文化芸術の世界への発信や人材の育成、文化観光を通じた交流人口の増加に向けて、国際的な文化芸術イベントを行うほか、札幌芸術の森の魅力向上や、<u>メディアアーツなど新しいテクノロジーの活用や支援等</u>に取り組めます。</p> <p>（当初案） 札幌市ならではの文化芸術の世界への発信や文化芸術人材の育成のほか、文化観光を通じた交流人口の増加に向けて、国際芸術祭などを始めとした国際的な文化芸術イベントを開催するほか、札幌芸術の森の魅力向上などを行います。</p>
10	柴田委員	<p>11-4に海外展開や国際ビジネス人材の育成について記載があるが、企業が国際的になるためには外国人を雇いやすくするというのがあると思う。 雇いたいんだけどハードルが高く雇えないという場合に、札幌市として外国人を雇いやすくなるような支援制度があればよい。</p>	<p>ご意見を踏まえ、基本目標11の目指す姿4の施策を修正します。 なお、高度人材としての外国人の採用については基本目標11の目指す姿4で掲げ、札幌で暮らす外国人の就職については基本目標12の目指す姿2において女性や高齢者、障がい者と同様に支援するものとして掲げ、取り組んでまいります。</p> <p>（修正案） 海外からの積極的な需要獲得に向けて、企業の海外展開や<u>外国人材の採用、国際ビジネス人材の育成</u>を支援します。</p> <p>（当初案） 海外からの積極的な需要獲得に向けて、企業の海外展開や国際ビジネス人材の育成を支援します。</p>
11	中田委員	<p>基本目標12の雇用に関する事で、札幌市において、技能実習生も含め外国人材が増えており、何千人という外国人材の方が札幌近郊も含め在住している。 企業としても、外国の方を雇用すること、技能実習生を雇い入れることが大事となってきている時代で、そういった方への支援を含めた記載にしてはどうか。</p>	<p>（修正案） 海外からの積極的な需要獲得に向けて、企業の海外展開や<u>外国人材の採用、国際ビジネス人材の育成</u>を支援します。</p> <p>（当初案） 海外からの積極的な需要獲得に向けて、企業の海外展開や国際ビジネス人材の育成を支援します。</p>

No.	委員	意見（要約）	対応
12	木村委員	<p>基本目標11で起業家の話、12で雇用の話が出てくるが、まず、働く人を分類した方が良いかと思う。</p> <p>例えば、横軸が「雇われる・雇われない（自営）」だとして、縦軸は「高度か低度か（ホワイトカラーかブルーカラーか）」とすると、4象限に分けることができ、「人に雇われずに自分で高度な仕事をする」と言うのは起業家になるが、フリーランスでどこかの企業の決まりきった外注の仕事を受けている人はそんなに増えなくてもいい起業家になる。</p> <p>基本目標11の「企業家の育成」では、そこにターゲットを当てて将来人をたくさん雇ってくれるような人を増やしたいという文脈にしたほうがよいかと思う。</p> <p>また、基本目標12では「高度な人材」という話が出てきており、今まで札幌市はコールセンター等を誘致してきたが、今後はそうではなく、ホワイトカラーを増やしたいという話に振り切った方がよいと思う。</p> <p>雇われる人も、ざっくり分けるとホワイトカラーとブルーカラーがあり、今後はもっと付加価値が高い仕事をするホワイトカラーの人を育てるし、移住してきてほしいのもそういう人ですと。</p> <p>コールセンターや決まった仕事をルーチンでする人を増やしても、そういう仕事は先々なくなってしまうし、その仕事から新たなビジネスが派生することもあまりないので、今後増やしたいターゲットを明確にした方がよいと思う。</p>	<p>経済成長を支える重点分野としては、基本目標10において、食、観光、IT、クリエイティブ、健康福祉・医療分野を掲げ、その中で人材の確保に向けた取組を行います。</p> <p>なお、これ以外の産業についても、例えば、建設業等担い手が不足している業種に対する支援も必要と考えているため、基本目標12の目指す姿1にそのことを盛り込んでいます。</p>

No.	委員	意見（要約）	対応
13	佐藤委員	<p>経済の全体的な話として、根底にある「人づくり」をもっと前面に出してもよいのではないかと思う。</p> <p>若者の人口流出という課題があるが、誰が流出しているのかということも大切な観点で、もしかすると優秀とされる若者が道外に流失してしまっているのかもしれない。大学にいと、頑張り屋に限って東京の大きな企業に就職が決まるというのが毎年のこととなっている。そういったことを踏まえると、地域で人を育てること、地域で働いてもらえる魅力あるまちづくりも大切で、そのためには大学への関与が欠かせない考える。</p> <p>11-3の目指す姿に「大学」という表現があるものの、「充実強化すること」からは抜けている。</p> <p>札幌は、構造的に大学の競争力が弱く、魅力ある教育や特徴的な取組をしている大学は他地域と比べるとかなり脆弱だと感じる。</p> <p>そうした中で、この状況を切り開く突破口は、地域とのつながりや地域に開かれていくということだと思う。</p> <p>ただ、大学単体だけでは変わりにくいところがあるので、例えば、札幌市というある意味核となるような外部の人たちが大学をつないで、開かれた大学の中で新しい取組（スタートアップ等）をするということができればよい。</p> <p>基本目標12の雇用の部分にも関連してくるが、優れた人材を育てるという観点について、大学に任せるのではなく、もっと行政が関与していくような姿勢があってもいいのではないかと感じた。</p>	<p>大学と地域や企業をつながり、大学間の連携については、基本目標2の目指す姿3（子ども・若者分野）の施策に掲げており、ご意見を踏まえ文言を修正し、取り組んでまいります。</p> <p>また、分野横断的に取り組む人口減少緩和策においても「大学との連携による若者の地元定着や大学・企業・地域コミュニティの活性化」掲げております。</p> <p>（修正案） 若者の地元定着や人材育成等に向けて、<u>大学と地域や企業</u>、大学間の連携を推進します。</p> <p>（当初案） 若者の地元定着や人材育成等に向けて、札幌市と大学や大学間の連携を推進します。</p>
14	佐藤委員	<p>事業承継に関して、若者と企業のビジネスマッチングは大事だが、現状としては若者が地域のビジネスを知る機会がない。</p> <p>大学と企業や産業のつながりというインターンシップがあるが、今はほとんどが就活の主戦場となってしまっていて、実質的なインターンシップ制度というものはあまりないのが現状。実践力を養うという教育的な視点もさることながら、地域のビジネスをリアルに知り、繋げていくという側面でも、大学の中に企業が行き、企業の中に大学が行くというような行き来がある状況を担保しないとこの理解が深まっていかないと感じる。</p> <p>先に述べた意見と重複するが、本来は大学がやるべきことではあるが、大学は組織文化上、自分からオープンになるのが難しいため、外にそういった窓口を作って、教育的なメリットがありつつ、マッチングにもなるような機会が生まれる仕組みをどこかに組み込めたら良いと思う。そういった意味でも「大学」というキーワードが入っていても良いかと思う。</p>	